

## 国内研修報告書

### 国内研修参加のきっかけ

私たちは大学の講義の中で SDGs をはじめとする環境に配慮した取り組みを学習してきた。企業や行政が取り組む事例なども含め国内外たくさんものを見てきた。近年サステナブルな取り組みが関心を集めている中で、国内研修の制度を利用して『食』にフォーカスした企画を私たちが作り上げたいと考えた。『食』に環境の面からアプローチしていく上でアップサイクルなども視野に入れていましたが、新しく昆虫食にフォーカスして活動していくことを決意した。現状として昆虫食はメキシコや東南アジア諸国で食べられている。貴重なタンパク源である。普段私たちが食べている豚肉、牛肉、魚、野菜に加えて昆虫を新たにカテゴライズしたいという気持ちを持ち国内研修に挑んだ。環境に配慮した持続可能な食について Z 世代のわたしたちが主体的に働きかけていきたいと考える。

### 研修先の設定と概要

#### 山形県コロニー協会

『自分らしく生活し、地域で自分らしく働きたい』という、希望を尊重し、その可能性を信じることを支援理念としてサポートしている。結核回復者への支援を始めとして今では就労継続支援 A 型、就労継続支援 B 型の活動を中心に行っている。また障害者の就労支援や放課後デイサービスを行なっている。一人ひとりの可能性を信じ、早期療養から、就労、地域生活まで寄り添って親身なサポートを展開していて、将来につながる対応を行なっている。未就学から社会人の年齢や立場において必要な支援を一貫している。障害のある方への支援を行っている一方で、山形コロニー協会の活動の中で環境に配慮してサステナブルな取り組みにも挑戦している。具体例としては印刷業を中心として行っているため、印刷の中で廃棄される紙の切れ端などを利用したアクセサリ制作などがある。障害者雇用と環境問題の 2 つの社会問題を掛け合わせることで新たな取り組みに挑戦しようとしている。私たちが昆虫食に興味を持って国内外で活動を行っているときに佐野先生を通じて『山形県コロニー協会が昆虫食に興味を持っている』という声を頂きました。私たちの昆虫食の活動の中でも都内の昆虫食を取り扱っている企業でインターンを行い、情報や知識をインプットした中で対外的にアウトプットできる機会になると確信した。昆虫食に関心を寄せているということだったので工場体験、現地訪問など昆虫食について学習してきたことを活かすことができると考えた。

### 研修内容 (2022.9.15)

#### ・山形コロニー協会の見学

広大な土地面積を活用したコロニー協会の施設の案内をして頂いた。建物がとても大きく東京との環境の違いを感じた。施設の中にも多くの分類がされていてニーズに適應したも

のを提供し続けている様子を伺うことができた。多様な事業から印象にのこった 3 事業を深く記していく。

#### ① 山形コロニー就労サポートセンター

就労サポートセンターでは一般企業に就職を希望している 18~65 歳未満の障害者の方を対象として日々訓練をしている。障害の特性や本人の希望に沿って障害者職業センターなどの関係機関と連携して支援を行っている。色々な職業から自分にも合った職業を探すために施設の中には実践的に職業体験できる環境が整っていた。また一般就労に移行した方に対して、就労定着支援として働く上での日常生活のサポートまで行っているのには驚いた。就職後で合っても 3 年間サポートを利用できる環境が整っていた。

#### ② 山形福祉工場（コロニー印刷）

障害者自立支援法の就労継続支援事業 A 型事業所とされている。山形福祉工場では元々印刷業を行っていたコロニーの中心事業となっている。障害のある方の就労と所得保障を目指している。一般の印刷会社と同じような編集から製本まで一貫した事業内容となっている。

#### ③ 山形コロニーセンター

現在は就労継続支援事業 B 型事業所とされている。障害の適性や希望などによってベーカーリー、プロダクト、リサイクル、ファームの 4 つの部門に役割が分けられている。一般就労が困難な状況になってしまった人たちに対して能力向上のために日々の生活に必要な訓練を行っている場所である。日によって仕事内容が変更するわけではなく、一度配属された部門の仕事を長く続けていく形態をとっているようだ。

これらの事業の他にも放課後デイサービスや相談支援など多岐にわたる事業を展開している。年齢や生活環境に応じて様々なサービスを展開していて利用者が自身の力を存分に発揮できる環境が整えられていることを実感した。

#### ・昆虫食の提案

現在環境配慮の面や栄養面から見て大きな可能性を秘めている昆虫食に活用についての提案をした。活用方法としておおきく 2 点提案した。

##### ① 果物の加工食品（フルーツグラノーラ）に混ぜること

全国的にとっても多くの果物が生産されている山形で生産された果物が処分されている問題がある。果物の処分と昆虫食の可能性を掛け合わせられないかと考えた。現状として果物は期限がととても短いため、処分されてしまうことが多くなっている。そこで保存期間を長くするために果物を加工し、そこにサステイナブルフードの昆虫食を混ぜ合わせることで究極の持続可能な食になるのではないかと考えた。コオロギはととても豊富なタンパク源であるため、今後の食糧危機や持続可能な食に大きな可能性を秘めていると考えている。

## ② 昆虫と将棋を掛け合わせた商品提案

山形県天童市で有名な将棋を活かした取り組みを提案した。具体的には将棋の駒をパッケージとして用いて昆虫食を提供するである。ご当地のお土産のような感覚で販売することによって商品に新たな価値がつくと考えた。色々な世代にも手に取ってもらいやすくなるのではないかと考えた。

### 感想・今後に向けて

山形県コロニー協会に訪問したことによって東京都内の福祉施設の見学だけでは学びきれない情報を得ることができた。私は広大な土地面積を生かした事業は新たな事業開拓や雇用の拡大などメリットが多くあるように思っていた。しかし、コロニー協会としては大きな施設を持つことによって多額な税金が発生してしまい、金食い施設のように感じたとお話しされていた。都内の昆虫食を取り扱っている企業に訪問した際には、建物を横ではなく縦に活用して一階が工場、二階がオフィス、三階が会議室のような活用をされていた。土地柄によって同じような目的で利用されている施設でも問題点は異なり多様であることを実感した。山形県コロニー協会がメイン事業として進めている印刷業に加えて、ベーカリーなど多様な取り組みを拝見することができた。今を生きる人たちのことだけを考えた活動ばかりではなく、サステイナブルな取り組みも多く見受けられた。印刷の際に発生する紙を使った紙ビーズなどの次世代に繋げていくような持続可能な取り組みも見ることができた。このサステイナブルな取り組みの一環として昆虫食を検討しているようであったが、大きな団体ということもありすぐには取り組むことが難しそうな印象を受けた。代表の方の思いや今後の目標をお聞きして環境配慮のボランティア精神のようなものだけではうまく進まないことを改めて実感した。雇用と環境の問題を掛け合わせて考えることで新たな施策を提案したつもりであったが、経営を続けていくためにはビジネス的視点も必要になることを考えさせられた。新たに昆虫食の利用を検討して新たな事業に取り掛かろうとしている中で、事業提案をした私たち学生の熱量を実際に現場で働いている方々に直接お伝えすることができた。私たちはこれからの活動の中で新たに考えられる連携団体や取り組み方法を模索していきたい。